

■菊池五山 漢詩人・儒学者。「五山堂詩話」で漢詩の大衆化を促進し、一躍詩壇に君臨するも、スキャンダルで衰退。

きくちござん

1769= 代々林家に学んだ儒者の家で、曾祖父半隠以来高松藩に仕えた儒者菊池室山の子に生まれる。

田沼意次老中1772= 3歳：

父の教授を受け、

船蝦夷来 1778= 9歳：

やがて後藤松隠について学び、

やや長じて京都に出、柴野栗山に従学。

田沼意次失脚1786=17歳：

寛政改革始・1787=18歳：幕府に招かれて江戸に出た栗山に従って、江戸に移り、市河寛斎の江湖詩社に参加。

1788=19歳：

柏木如亭や大窪詩仏らと、その中心的詩人として活躍する一方、本榔一丁目に帷を下して教授した。詩名が高く集まる門人も多かった。若い頃は遊蕩に耽り、才子気取りの時もあった。

松平定信引退1793=24歳：

ブートン来航・1796=27歳：

昌平黷始・1797=28歳：高松藩の職を辞し、出奔して、諸国を巡り、

古事記伝・1798=29歳：「自造の罪」によって、江戸を去り、京坂を経て、四日市に逼塞。

青洲麻酔手術1805=36歳：

報復・1806=37歳：江戸に戻り、「五山堂詩話」を書き始め、

船狼藉・1807=38歳：*刊行開始。

以後、毎年巻を出し続けるうち、五山の批評家としての名声と権威が確立、

高田屋拿捕・1812=43歳：*赦免されて、高松藩の藩籍に復したが、

黒住教・1814=45歳：

1815=46歳：翌年にかけて起こった「書画番付け騒動」の黒幕と目されたことによって、その権威は低下し、

伊能測量終・1816=47歳：*巻十が発刊され、それ以後補遺5巻が出されるが、かつてのような大衆的人気は失われてしまう。この年、江戸で発行された文人番付で西の閑脇に記載される。

水野忠成老中1818=49歳：

本朴来日・1823=54歳：

異国船打払令1825=56歳：一族の菊池武雅の家を継ぎ、9代藩主頼恕に仕えて記室となり、江戸藩邸に勤務。

本朴追放・1829=60歳：江戸の大火で、それ迄の詩稿をすべて焼失してしまう。

鼠小僧磔・1832=63歳：「五山堂詩話」の刊行終わる。

大塩平八郎乱1837=68歳：

天保改革始・1841=72歳：

阿部正弘首座1845=76歳：

北斎没・1849=80歳：致仕し、

国定忠治磔・1850=81歳：

安政大地震・1855=86歳：江戸で、没した。

その他「清人詠物詩鈴」「水東竹枝」「西湖竹枝」が刊行されている。小説家菊池寛の曾祖父は五山の兄。